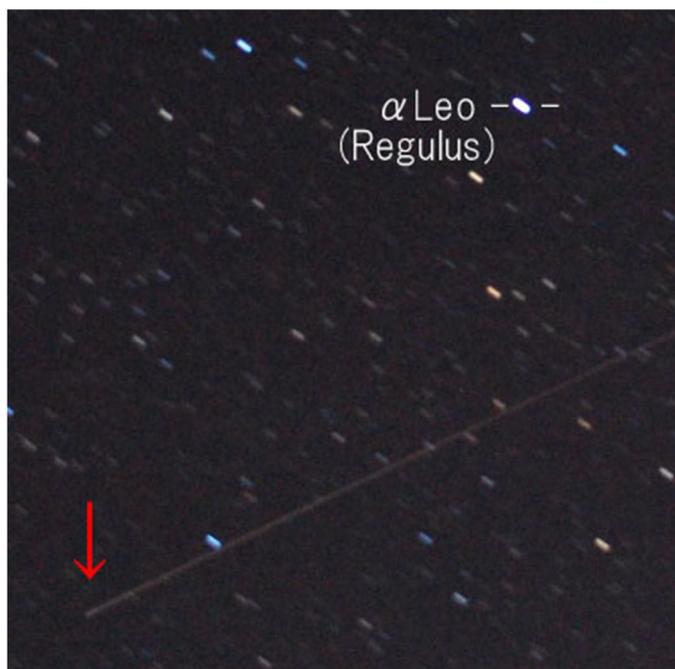


## 「初日の出前の国際宇宙ステーション」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今年の元日の早朝、九州から北海度の広い範囲で、国際宇宙ステーション (ISS) の光軌を見ることができた。私が滞在していた群馬県は、ほぼ頭上を飛行した。天気も快晴で、すばらしい写真が撮れることが期待された。予定は 5:35 なので 5 時に起きて、北軽井沢小学校裏の、高原野菜畑の道で待つことにした。私が天体写真をよく撮りにいくロケーションである。



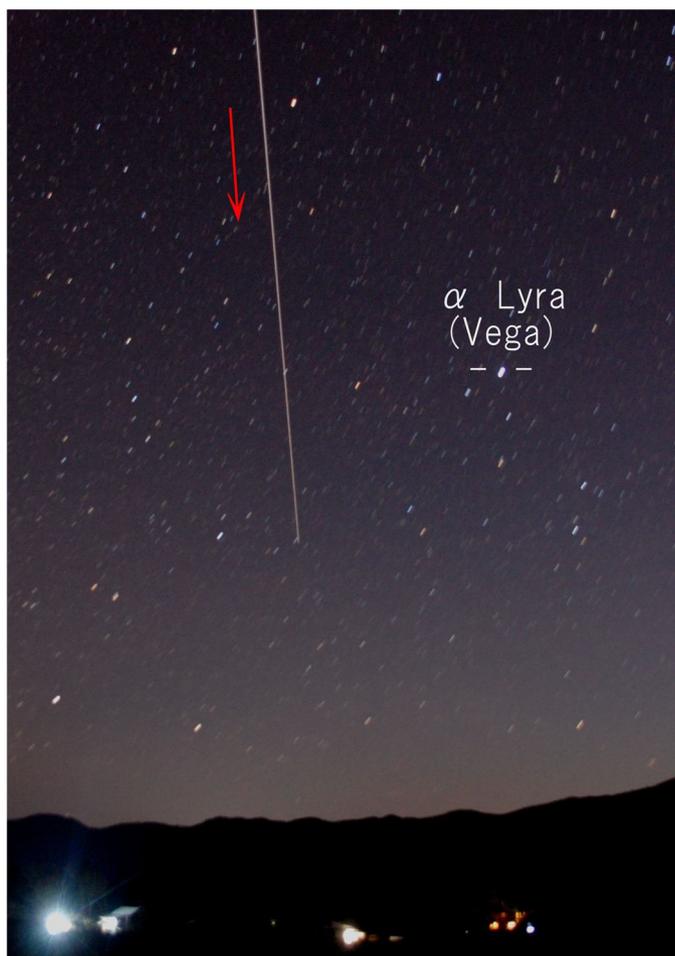
計算では、しし座 (Leo) 付近を飛行するはずである。果たして、予定時刻よりも少し前に、しし座の近くを一筋の光が横切った。しかし様子がおかしい。だんだん暗くなって 15 秒ほどで消えてしまった。あとから写真をよく確認して、これは ISS ではなく流星だとわかった。大気圏に非常に浅い角度で進入したために、燃え尽きるのに時間がかかったのだ。私はこの迷惑な流星に、あっけなく騙されてしまった。

しかし、その場では流星であることに気づかず、「太陽高度が低いので、ISS は肉眼では見えないほど暗いのだろう」と勝手に解釈して、三脚もカメラも撤収し始めていた。

ところが数分後「ホンモノ」が出現した。すでにしし座を横切り、北斗七星に向かっている。「しまった！」あわててカメラを再設定して撮ったのが、左下の写真。明るい！これぞ「ISS の写り方」である。



「北斗七星を横切る ISS」 C.Tanaka



その後 ISS は、北東方向に高度を落としていった。天の川を横切り、こと座 (Lyra) のわきを通って、北太平洋に去っていった。初日の出まではまだ 1 時間以上ある。ISS の宇宙飛行士は、地上よりも 1 時間以上前に「初日の出」を迎えたことになる。ISS は室内灯を除き、自力ではほとんど発光しない。地上から ISS が見えるのは、上空の ISS が太陽光を反射しているからである。地上から観測していた私も、初日の出よりも 1 時間以上前に、「今年最初の太陽光」を見ることができた。流星に騙されたのが不覚だったが・・・。